

公益社団法人

全国学校栄養士協議会報

平成29年8月
第70号

発行

公益社団法人
全国学校栄養士協議会
電話 03 (6380) 4360全学栄ホームページ <http://www.zengakuei.or.jp/>

第58回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会が、8月3～4日の2日間にわたって、石川県金沢市において開催されました。

シンポジウムや分科会での実践発表等を通して、全国各地の素晴らしい取り組みを知り、互いに研鑽を積むことができました。

また、本年6月には、文部科学省より、「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～」が各学校に配布されました。本書では、栄養教諭が中核となって担う食育を学校全体で推進していくために、管理職者や教職員と共通理解を図り、食育推進体制を設置してチームで取り組むことが求められています。

さらに、小学校では平成32年度、中学校では平成33年度に施行される新学習指導要領が、今年度、周知徹底を図る期間に入りました。ここでは、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力として、「健康・安全・食に関する力」があげられており、学びを通して児童生徒は何かができるようになったか、課題解決への確実な力を身につけることができるよう示されています。

このように、学校における食育の更なる充実が図られようとしている今、私たちは、教育活動における食育のあり方をしっかり見据え、専門職としての力を発揮しながら、職務に邁進していくことが必要です。

公益社団法人 全国学校栄養士協議会会長

長 島 美 保 子



〈目次〉

- 栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育・・・・・・・・・・ 2～3
- (公社) 全国学校栄養士協議会 組織図 / 役員紹介・・・・・・・・ 4
- 総務・運営部 / 研究部 / 研修部 / 渉外部・・・・・・・・ 5～6
- 第59回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会 (広島県)・・・・・・ 7
- 第12回食育推進全国大会 報告 (岡山県)・・・・・・・・・・・・ 7
- 都道府県だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8



第 12 回食育推進全国大会の非常食展示風景

栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育

～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課 食育調査官 横 嶋 剛

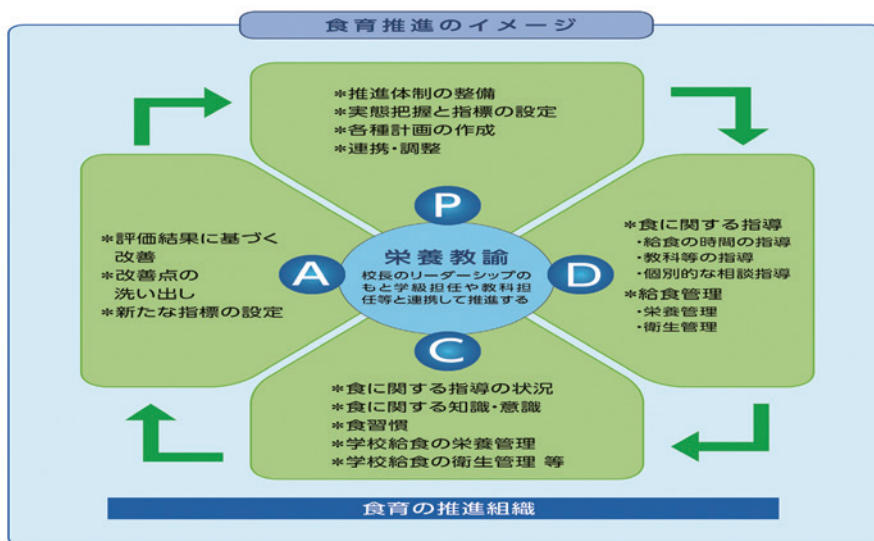
1 はじめに

文部科学省では、平成 28 年度に「これからの栄養教諭の在り方に関する検討会議」を設置し、その検討結果を踏まえて「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育」という冊子を作成しました。この冊子は、学校において栄養教諭が果たす役割を明確にすることにより、管理職者、学級担任など全教職員が栄養教諭を中心とした食育推進体制について認識を深め、学校や自治体における栄養教諭配置に関する理解促進につなげていくものと考えています。

これまで、食に関する指導は「食に関する指導の手引」を指導資料として、また学校給食の衛生管理や栄養管理などについてもそれぞれの業務や分野ごとに基準やマニュアルに基づき取り組んでいますので、今回の冊子が出ることにより、何か新しいことを行うということではありません。あくまで、これまで行ってきたことを、「見える化」し、栄養教諭はもとより、全教職員が理解した上で、食育を推進するためのものなのです。今年の 6 月に、この冊子を都道府県に配付するとともに、その活用の考え方などについて周知しています。

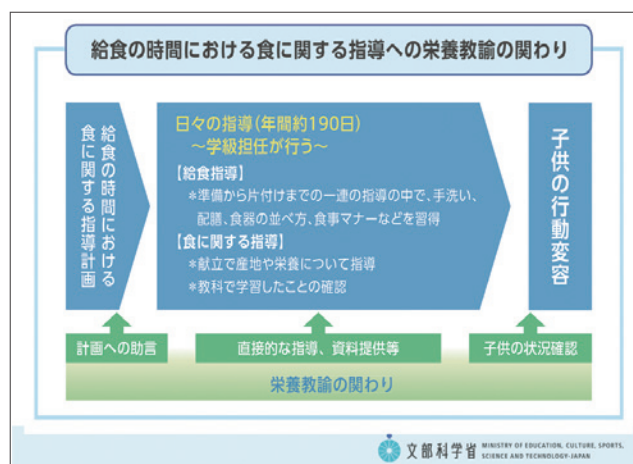
2 食育推進のイメージ

栄養教諭は、児童生徒等の「栄養の指導及び管理をつかさどる」教員として、その専門性を生かし、食に関する指導における全体計画作成や実践等で中心的な役割を果たすとともに、学校給食の管理において、栄養管理や衛生管理等に取り組み、学校内における教職員間及び家庭や地域との連携・調整で要としての役割を果たすことが求められています。本冊子では、PDCA サイクルに基づく、一連の業務を明確に示しました。



3 食育推進体制

全校体制で組織的に食育が推進できるよう、校長を責任者として、食育・学校給食に関する各種計画の策定及び進行管理をする委員会を設置します。委員会等の設置が難しい場合は、既存の委員会等(食育推進委員会、学校給食委員会、学校保健委員会等)を活用します。そして、これらの委員会等の検討を経て、職員会議などで全教職員の共通理解を図り計画などを決定します。

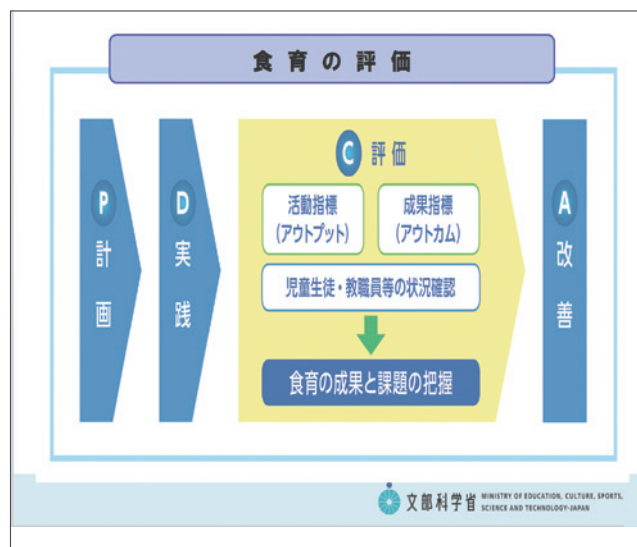


4 実践

本冊子では PDCA の「D 実践」の中で、栄養教諭を中核として取り組む「食に関する指導」と「学校給食の管理」について示しました。「食に関する指導」については給食の時間を活用した食に関する指導や教科等の指導などの全体に対する集団的な指導と、個々の児童生徒の健康課題等に応じた個別的な相談指導を行います。その際、学級担任や教科担任、養護教諭等と一緒に組織として取り組むことにより、効果的な指導を目指します。

また、「学校給食の管理」については、栄養教諭がリーダーシップを発揮し、「学校給食実施基準」や「学校給食衛生管理基準」などにに基づき栄養管理、衛生管理などを徹底します。

実践の各項には栄養教諭がどのように関わったらよいかイメージできるよう図の中に「栄養教諭の関わり」を示しました。

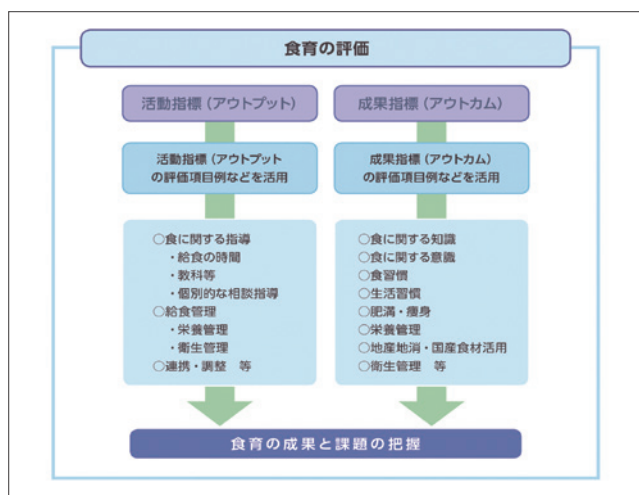


5 評価

学校における食育は、学校教育活動全体を通じて総合的に推進することにより、成果が期待できるものです。その際、食育推進の成果や栄養教諭の配置効果などを明確にすることが大切であるため、計画策定時に設定した指標に基づき、取組状況や取組の成果などについて、活動指標(アウトプット)や、成果指標(アウトカム)により評価します。そして、取組状況の評価と取組の成果の関連等について検討し、食育の成果と課題を把握します。

本冊子では、評価指標の例を示しましたので、各学校等の実情に合わせて、これらの指標の中から必要な項目を選択、加除修正、又は各学校独自の指標を設定します。また、評価の様式や方法等についても、適宜、設定します。

なお、これらの評価を「学校評価」につなげていくことは、組織として継続的な評価を行うことにつながるから、学校における食育の推進につながります。



評価指標 (例)		活用した食に関する指導が推進され、	1	2	3	4
食に関する指導	給食の時間における食に関する指導	☐ 栄養教諭と学級担任が連携した指導を計画的に実施できたか。	1	2	3	4
		☐ 学級担任による給食の時間における食に関する指導を計画どおり実施できたか。	1	2	3	4
		☐ 手洗い、配膳、食事マナーなど日常的な給食指導を継続的に実施できたか。	1	2	3	4
		☐ 教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認できたか。	1	2	3	4
		☐ 献立を通して、伝統的な食文化や、行事食、食品の産地や栄養的な特徴等を計画的に指導できたか。	1	2	3	4
	教科等における食に関する指導	☐ 教科・特別活動等における食に関する指導が推進され、機能しているか。	1	2	3	4
		☐ 栄養教諭が計画どおりに授業参画できたか。	1	2	3	4
		☐ 教科等の目標に準じ授業を行い、評価規準により評価できたか。	1	2	3	4
		☐ 教科等の学習内容に「食育の視点」を位置付けることができたか。	1	2	3	4

6 むすびに

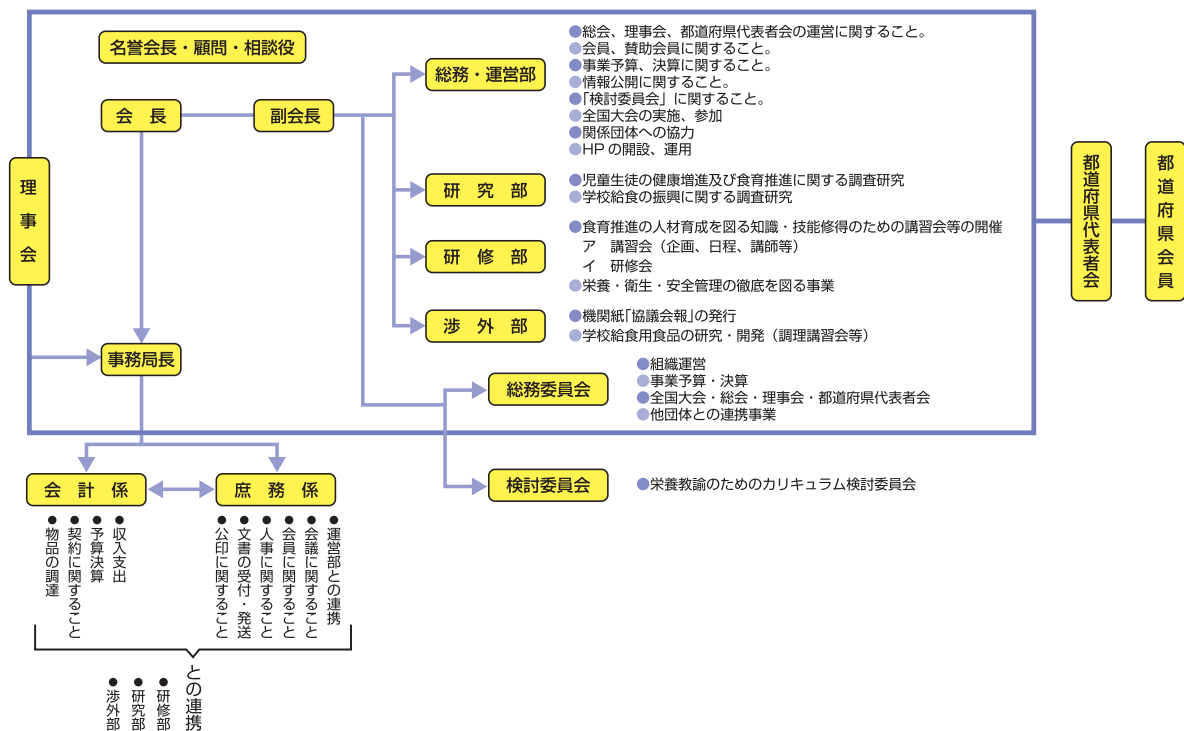
前述したとおり、本冊子は、栄養教諭はもとより、全教職員に学校の食育について理解していただくために作成したものです。今後、各学校や各教育委員会などにおいて、本冊子が有効に活用され、栄養教諭を中核とした食育の推進に関する理解促進に寄与し、各学校における

食に関する指導及び学校給食の管理などの充実が図られることを期待しています。



(公社)全国学校栄養士協議会 組織図

平成29年度版



新体制で出発！！

役員紹介

今年度6月の定時総会において、理事19名、監事2名の選任が行われました。理事会において、会長に長島美保子、副会長に駒場啓子、柳沢幸子が再任されました。さらに、4部の各担当を決め、新しい組織でスタートしました。

名誉会長 たなか のぶ 田中 信	顧問 こばやし まちこ 小林 町子	相談役 いちば さちこ 市場 祥子
監事 おいかわ えみ子 及川 えみ子	監事 むらい えいこ 村井 栄子	会長 ながしま みほこ 長島 美保子 担当：総務・運営部、研究部、渉外部
副会長 こまば けいこ 駒場 啓子 担当：研修部、研究部	副会長 やなぎさわ ゆきこ 柳沢 幸子 担当：研修部	理事（北海道・青森県） ひばり かおる 雲雀 馨 担当：渉外部・部長
理事（岩手県、秋田県、宮城県、山形県） おのであ えりこ 小野寺 江梨子 担当：渉外部	理事（茨城県、福島県、栃木県、群馬県、新潟県） おのせ ひろこ 小野瀬 尋子 担当：研修部	理事（埼玉県） いまい ゆかり 今井 ゆかり 担当：研修部
理事（千葉県） しらとり ゆみこ 白鳥 友美子 担当：研修部	理事（東京都、神奈川県） しまさき さとこ 島崎 聡子 担当：研修部	理事（富山県、石川県、福井県、岐阜県） かめがい あきこ 亀ヶ谷 昭子 担当：総務・運営部・部長
理事（静岡県、山梨県、長野県） いけじま ちえこ 池島 千恵子 担当：総務・運営部	理事（愛知県） はやし ゆかり 林 紫 担当：研修部・部長	理事（三重県、滋賀県、京都府、大阪府） つじむら なみ 辻村 波 担当：研究部
理事（奈良県、兵庫県、和歌山県） たまい のりこ 玉井 典子 担当：渉外部	理事（岡山県、鳥取県、島根県、広島県、山口県） なかむら みゆき 仲村 みゆき 担当：研究部	理事（愛媛県、徳島県、香川県、高知県） たけかた みゆき 武方 美由紀 担当：研究部
理事（福岡県） わさい たえ 和才 妙 担当：研修部	理事（佐賀県、長崎県、熊本県） まつお しょうこ 松尾 奨子 担当：渉外部	理事（宮崎県、大分県、鹿児島県、沖縄県） みやもと もとこ 宮本 元子 担当：研究部・部長

※()内は担当の都道府県名です。

総務・運営部

総務・運営部は、会の運営に関する事項全般を所管します。

- ・総会、理事会、都道府県代表者会の運営
- ・事業推進、予算、決算
- ・全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会の主催(文部科学省と共催)
- ・各種検討委員会の運営
- ・関係団体への協力
- ・ホームページの開設運用

1 第 44 回定時総会

6 月 9 日(金)、定時総会が行われ、平成 28 年度事業及び収支決算の報告、定款の一部変更、会長・副会長・理事・監事の選任について審議等、すべて承認されました。

2 第 58 回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会

8 月 3 日(木)・4 日(金)、石川県金沢市において、文部科学省、開催地の教育委員会とともに、学校における食育推進・栄養教諭・学校栄養職員の資質向上に向けて研究協議を行う全国大会を主催しました。

3 栄養教諭のためのカリキュラム検討委員会

平成 28 年度は、食の指導書「新しい食育小学校第 2 編」を作成・配布しました。本書は、小学校における食育のカリキュラムプランを作成し、発達段階における指導内容を示し、具体的な指導展開例が掲載してあります。

今回作成の第 2 編では、食に関する指導技術(スキル

アップ)の向上を図るための、具体的な方法についても分かりやすく掲載してあります。

今年度は中学校編を作成します。

4 食育月間事業

第 12 回食育推進全国大会(岡山市:6 月 30 日～7 月 1 日)に参加をはじめ、国の施策や他団体と連携して食育活動を行っています。

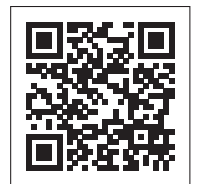
5 関係団体への協力

春のキッズフェスタ(「早寝早起き朝ごはん」全国協議会開催東京都:5 月 20 日)に参加し、ワークショップとパネル展示、啓発資料の配布を行いました。(秋のキッズフェスタは 10 月 28 日開催予定)

6 ホームページの充実

(<http://www.zengakuei.or.jp>)

本会事業の紹介や調査研究結果等を開示しています。会員専用のページのパスワードは、平成 29 年 7 月 1 日より変更になりました。ご不明な点は、都道府県代表者にお問い合わせください。



研究部

研究部は、栄養教諭の資質向上を図るための研究を行っています。

1 食育の推進事業

(1) 学校給食週間行事の推進

全国で行われている食育活動を収集し事例集を作成しますので、これを参考に食育推進に役立ててください。

(2) 食育推進リーフレットの作成・配布

食育推進啓発活動として一般向けの資料を作成し、食育推進大会や各種イベント等で配布します。

2 健康増進調査研究事業

(1) 食生活実態調査

研究推進助成事業を通して会員の資質向上と食育の推進を図ります。また、会員より収集した食物アレルギー実態調査結果を基に食物アレルギー対応の在り方について研究します。

① 研究推進助成事業

児童生徒の健康増進に関する調査研究に助成し、研究への取組を促します。平成 29 年度は、岡山県、滋賀県、鹿児島県に助成します。

研究結果は本会ホームページ、会報において公表します。これまでの取組も公表していますので参考にしてください。

② 食物アレルギー実態調査

食物アレルギー実態調査をもとに、事故を防ぐ食物アレルギー対応の在り方を検討し、専門家の助言を基に「ヒヤリハット事例から学ぶ 食物アレルギー対応」を作成します。

研 修 部

今年度、研修部では夏季講習会をはじめ、3回の栄養教諭免許状更新講習会、2回の食育推進講習会の合計6回の研修会を開催します。また、研究授業方式による衛生管理研究会の実施とまとめの冊子を作成します。

1 栄養教諭免許状更新講習会

この講習会では、栄養教諭免許状更新に必要な選択領域 18時間の単位が3日間で取得できます。

2 食育推進講習会

この講習会では中央の先生方の最新の講義や情報を直接学ぶことができます。

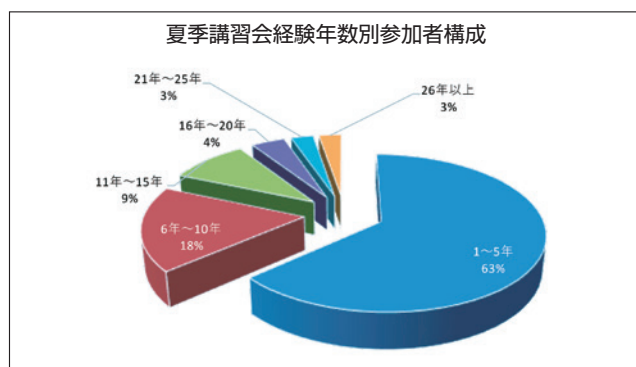
グループワークでは、本協議会が作成しました食育カリキュラムを活用して指導案を作成し、模擬授業をおこない、指導助言をいただき、即、実践に結びつける研修内容です。

3 学校給食夏季講習会

7月15・16・17日の3日間、国立オリンピック記念青少年センターにおいて、夏季講習会を開催いたしました。

今年度で第53回を数える本講習会は、経験年数が5年未満の方々を中心に、全国から151人が参加されました。

講習は、栄養教諭・学校栄養職員の役割、衛生管理、栄養管理、食物アレルギー対応、心理学と多岐にわたる内容で実施しました。



またグループ討議では、小学校・中学校・共同調理場、特別支援学校・夜間定時制高校等規模別に合わせた11のグループで討議を行い、現場での実践内容や課題等話し合いました。

4 研究授業方式による衛生管理研究会

各県で取り組んでいただいた衛生管理研究会の事例集をまとめています。全国の様々な給食調理場で工夫されているアレルギー対応を含めた衛生管理の実際を、いろいろな観点で分析しながら皆さんに紹介します。



渉 外 部

渉外部は、機関誌の発行と学校給食用食品の研究開発、および関係団体と協力して調理講習会や親子料理教室の取りまとめを行います。

1 機関誌「公益社団法人全国学校栄養士協議会報」の発行

会報は8月と2月、年2回発行されます。全学栄の活動報告、各種大会の案内や報告、有識者の先生方からいただいた原稿、都道府県だより等の情報をお届けします。

2 学校給食用食品の研究開発

(1) 災害時における非常食の開発

「救給カレー」(平成25年供給)「救給根菜汁」(平成29年1月供給開始)「救給コーンポタージュ(玄米入り)」(平成30年1月供給予定)は、ライフラインが途絶えた中で救援物資が届くまでの「いのちをつなぐ」非常食として開発され、防災の日の給食や自然災害など不測の事態にも、たくさんの使用実績が報告されています。

(2) 全学栄製品及び全学栄すいせん製品の選定と献立研究

既存の全学栄製品などの紹介や改善検討、開発など行っています。



3 関係団体への協力

全学栄製品及び全学栄すいせん製品等の食材を活用した調理研究事業に参画し、学校給食の献立充実のための調理講習会や親子料理教室の取りまとめを行います。会員の資質向上につながる取り組みです。今まで調理講習会等したことがないという都道府県もぜひ計画してみてください。

第59回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会 広島で開催されます。

第 59 回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会は平成 30 年 8 月 2 日(木)～8 月 3 日(金)の日程で、広島県広島市において開催されます。

会場は、平和都市広島を中心となる平和公園の中にある「広島国際会議場」です。



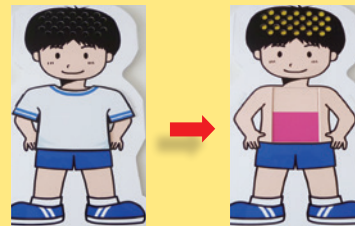
～記念品のお知らせ～

開催にあたり、広島県の会員のアイデアがいっぱいの記念品を準備いたしました。ご協力をお願いいたします。

- ①栄養 3 色エプロン(2,800 円)
- ②エネルギー人形(1,300 円)
- ③クリアファイル 3 色セット(600 円)
- ④尾道頒布エコバッグ(1,500 円)
- ⑤尾道頒布作品バッグ(3,000 円)
- ⑥藻塩・レモスコセット(900 円)

広島といえば、“お好み焼き”に“もみじ饅頭”、それに“安芸の宮島”と観てよし、食べてよしのおすすめスポットが満載です。平成 30 年の夏は、真っ赤に燃える広島にぜひお越しください。熱いおもてなしでお待ちしております。

「エネルギー人形」



朝食の指導に役立つ、広島県の会員が開発した教材です。脳や体のエネルギーを見える化しています。指導案もついています。これまで、ありそうでなかったおすすめの教材です。

* 記念品の詳細・問い合わせについては、各都道府県代表者にお尋ねください。

* 記念品の申し込みは、各都道府県代表者を通じてお願いします。



第12回 食育推進全国大会 in おかやま 出展報告

食育は人づくり！みんなでええ「食」を次世代へ
～ 桃太郎のまち岡山から 未来へつなげる食と健康 ～

(公社) 全国学校栄養士協議会 岡山県代表者 森分 千穂

食育推進全国大会は、今年度で 12 回目となります。岡山市に於いて 6 月 30 日(金) 7 月 1 日(土) 開催されました。会場を岡山コンベンションセンターとジップアリーナ岡山の 2 会場に分け、来場者数は、2 日間で 2 万 1200 人でした。不安定な気圧配置が続く中、部分的には雨にみまわれましたが、肝心の時にはさすがと言わんばかりに、「晴れの国おかやま」に恥じない日よりとなりました。テーマ『子どもたちへの食育のさらなる充実をめざして』をもとに、全国学校栄養士協議会のブースを完成させました。



① 掲示

都道府県別中学校

給食実施率やカルシウムの重要性の展示から、学校給食が成長期の児童生徒に欠かせない重要な物であることが、来場者の方々に伝わったようです。

② 栄養クイズ

自信満々の児童生徒世代、栄養士の卵世代、子育て世代、中高年世代と誰もが挑戦意欲を示し、授与された

金メダルは 600 個近い数となりました。記念品には食品のグループ分けを示した下敷きをプレゼントし今後に活かしていただけるよう、また、金メダルの輝きと同様に、元気に輝く健康な食生活を送れるよう、心から願ってやみません。

親子で仲良く
クイズに挑戦!!



③ 岡山県の食育活動の紹介



岡山の食育、あれこれ



ごぼうの葉っぱ!

都道府県だより

「地域の食材を宝に食育の推進を」

神奈川県は、横浜・川崎地区を代表する都市部と、湘南の海、箱根や足柄の山、三浦の畑など自然豊かな地域を併せもつ県です。そして多様な地場産物に恵まれています。三浦のキャベツやだいこん、鎌倉野菜、三崎のまぐろなど全国で知られる食材の他、生産量全国2位の横浜のこまつな、足柄のみかんやお茶、小田原のかまぼこ、梅干し、湘南のしらす、高座豚などなど。栄養教諭・学校栄養職員は、それらの地場産物を給食に取り入れて食育を行い、児童生徒が郷土を愛する心も育てています。

神奈川県学校栄養士協議会の取組としては(公財)神奈川県学校給食会と共催の「我が家の自慢料理」の募集があります。県教育委員会、神奈川県、横浜市、

川崎市のPTA連絡協議会の後援を受け、子どもの喜ぶかながわ産食材を使った自慢料理を募集しています。応募数は年々増えて、優秀作品は給食に取り入れ、県主催の「かながわ食育フェスタ」でも紹介しています。

このように、神奈川県では家庭、地域とも連携し、宝の食材と言える地場産物を活用した食育を積極的に行っています。

児童生徒が生涯にわたって自ら健康的な生活をおくることができるように、これからも食育の推進に精一杯取り組んでまいります。

神奈川県代表者 宮原 由美子

「奈良のおいしさをつめこんで」

奈良県は、紀伊半島の中央に位置しており、海はないものの、山や川といった自然に恵まれた環境です。しかし、森林の占める割合が非常に高く、農業に適した平坦な土地が少ないため、耕地が少なく、学校給食用に農作物を確保することがなかなか難しい状況です。

このような現状を踏まえ、公益財団法人 奈良県学校給食会では、奈良県産食材を使用した商品の開発を積極的に進めています。大和の伝統野菜である「大和まな」や「片平あかね」を使った製品、奈良県産の米粉や大豆・いちご・柿・大和茶などを使った製品があり、現在では約30種類の地場産物開発商品があります。

また、奈良県学校給食栄養研究会では、地場産物を活用した献立コンテストを開催したり、研修会等で情報の共有を図ったりし、地産地消率アップにつながる取り組みを実施しており、第3次食育推進基本計画に掲げられている「学校給食における地場産物を使用する割合」の目標値である30%を達成できるよう努めています。

これからも、会員で知恵を出し合い、工夫を凝らして、奈良のおいしさをつめこんだ魅力ある学校給食を子どもたちに届けていきたいと考えています。

奈良県代表者 森脇 尚子

「研究発表会と自主研修会」

大分県では、会員の日ごろの研究成果を発表する場として、年1回「大分県学校栄養士研究会発表会」を開催しています。この会は昭和52年から始まり、平成29年には第40回目の節目を迎えます。

初期のころは、アンケートや調査をいかに工夫して行うかという初歩的な内容でしたが、最近では各地区の会員が「栄養管理・衛生管理・食に関する指導」をテーマとし、2～3年の研究成果を発表しています。

午後からはグループに分かれ、発表の内容に沿った研究協議を行います。さらに有識者からの指導・助言をいただき毎年研究を深めています。

また、個人の資質を高めるため、平成9年度より年3回自主研修会を行っています。土曜日に実施し、

模擬授業・意見交換後、現役の校長先生をはじめ、私たち栄養教諭・学校栄養職員を応援して下さる方々より指導助言をいただいております。

大分県は栄養教諭の採用がまだまだ十分ではありません。会員一同、いつ栄養教諭として採用されても、児童生徒のために十分な食に関する指導が行えるよう、各地区で教材や指導内容の工夫について研究をしています。

また、おいしく安全な給食の実施に向けて栄養管理・衛生管理も怠らないよう日々研鑽を積んでいく次第です。

大分県代表者 時松 玲子